

第5回 『孫氏』と「風林火山」—名と実との関係—

「人生を豊かにする中国古典—学びなおす歴史と文化」

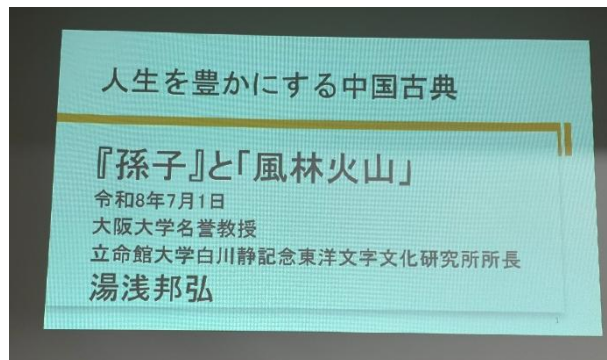
講師 湯浅邦弘先生 2026.7.1

少雨の日でしたが夏休み前の最終日の講義でした。

① 武田信玄と映画「影武者」と武田神社

湯浅先生は甲府の武田神社を訪問されました。新大阪から新幹線名古屋、名古屋からJR中央線経由で甲府まで約五時間かかる長旅との事。私も以前名古屋から塩尻まで行ったことあり、途中車窓からの景色

は素晴らしかった事を思い出す。武田神社では信玄は神としてまつられている。映画「影武者」の解説、影武者の悲哀、孫氏の旗など説明あり、先生はこの旗印のミニ版買ってこられ、ご自分のデスクに置いておられると。



② 『孫氏』の思想

「勝算」とは突出した合理性。開戦前に「廟算」御前会議行う。その指標は「五字」即ち道・天・地・将・法とあるが、政治の正しい在り方・軍を統括する将軍の資質と能力・戦場の地理がとりわけ重要と思えた。講義を聴きながら新田次郎の「八甲田山の死の彷徨」を思い出した。地元の地理の詳しい人を案内にとして雇い、驚愕の雪中行軍を死者一人も出さずに成功させた。「地」は現在でも極めて有効。

「戦う前に情報が必要」、「情報にこそお金をかける」、即ち、敵を知り己を知れば、百戦危うからず。その昔、日本は太平洋戦争に突入してしまった。時の為政者が孫氏の兵法を熟知しておればと思わずにはいられない。

風のように迅速に行動し、林のように声を潜めて姿を隠し、燃えさかる火のように侵略し、山のようにどっしりと動かない。【風林火山】

それにしても先生の仰せの通り、2500年も前にこの孫氏の兵法が存在していたとは全く、驚きしかない。現在でも優れた指導書として学びたいものです。



以上

文責：N、O